



第1132号
2009年7月19日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nskk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

私は高齢者の音楽療法をボランティアで行っている。高齢者施設を訪問して、懐かしい唱歌、童謡、歌謡曲などを歌ってもらい、認知症の改善や予防を支援する。音楽療法を行うために、認知症についての勉強をさせられたが、そこで最近ふと気づいたことがある。それは、教会の礼拝が認知症の予防に役立ついくつかの要素を備えていることだ。

一つは聖歌を歌うこと。まさに音楽療法そのものである。歌うことによって、呼吸やリズムが脳を活性化させる。

次に祈禱書を見て祈りを唱えること。音読が脳を活性化させることは各種の研究で証明されている。時には聖書の朗読

《み手のなかで》

礼拝で認知症予防？

高橋 委作

をしたりすれば更に効果は上がる。三番目は信徒の交わり。他人との交流やお付き合いの多い社会との繋がりが脳の老化を予防、改善することが多く報告されている。教会には老若男女、様々な職業の人たちが集まるから、人との交わりの効果は絶大である。

このように、礼拝は認知症予防に大いに役立つと言ってもよいのではないだろうか。

神様は私たちのために、聖餐という sacrament をお与えになられた上に、毎主日の礼拝を守っていただければ、認知症予防というおまけまで付けて下さっているのではないかと。神様の計り知れない大きなみ手を感じ、思わず「主に感謝！」と叫びたくなる感動を覚える。

(聖愛教会信徒)

◇7月の代禱・信施奉献先
▽アジア学院の働きのため▽海の主日(7月第2主日7・12)
▽聖公会八王子幼稚園のため▽女性の家HELIPのため
◇堅信受領
7月5日 東京聖テモテ教会
▽榊原美美子(聖テモテ)
◆とこしえの平安
7月6日 牛木 和子(78) 池袋

▽台東九条の会南部地区の集い(聖ヨハネ) 金竜介弁護士の話(今、憲法情勢は!)。7月29日(水) 19時〜20時半。会場 Tel 03(3851)9521。

▽8月聖路加国際病院礼拝堂《夕の祈り》 5日(水) 18時半
オールガン演奏に引き続き19時から。演奏者 今井奈緒子。ま

今週・来週の予定 7月19日~8月1日

- | | | |
|---------|---|---|
| 19(日) | 聖霊降臨後第7主日
主教巡回
聖パトリック教会
外濠G教会協議会
山手G教会協議会
多摩G教会協議会
環状G教会協議会 | 日・清里自然学校
▽聖パウロ
117日(金)〜9日(日)・清里清泉寮
▽聖愛(教会学校)
118日(土)〜9日(教会)
▽聖マーガレット(小学校)118日〜10日(月)・清里フォレスターキャンプ場
▽聖マルチン118日〜10日・湯の丸シャロームロッジ
▽聖アグネス
11箱根スコレプラザ |
| 20(月・休) | 財政委員会 | |
| 22(水) | 教役者聖餐式 | |
| 23(木) | 山手G牧師協議会 | |
| 24(金) | 城南G牧師協議会 | |
| 26(日) | 聖霊降臨後第8主日
主教巡回
立教諸聖徒礼拝堂
城南G教会協議会
下町G教会協議会 | |
| 28(火) | 銀座朝拝会
教区企画室
礼拝音楽委員会 | |

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

正義と平和協議会運営

委員会報告 (7月6日)

*7月講演会(本田哲郎神父)および閉会後の協議会の運びなど最終準備につき確認・協議。

*敗戦記念日祈祷会(8月15日・池袋聖公会)への支援・共催の確認協議。

*「広島平和行進」への中高生および引率参加につき最終調整(8月4日〜6日)。

*「平和メッセージ」を8月上旬、また「正義と平和便り」を11月中旬;、それぞれ発刊に向けた内容・日程などの企画。

*浅草日曜給食活動(7月から再開)の現況報告、およびその他の働きを含めた社会宣教の視点から教区プロジェクトの立ち上げへ向けて協議(継続)。

*その他。

▽五本木九条の会(憲法を学ぶ)講演会³⁸ 「日本人と外国人の『隔ての壁』」共生を阻む入管法改悪、講師 佐藤信行(外為法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会事務局)。7月22日(水)18時半〜20時半、聖パウロ教会。聴講無料。照会 090-8044-8524(同会事務局)。

▽「一羊会」の集まり(人権を守るための対話) 「えん罪事件にかかわって」講師・石川治子シスター(カトリック)。25日(土)10時半〜12時半、東京聖三一教会。聴講無料(席上カnp)。照会 042(393) 2256・森田麻理子。

《今、この教会では…》

聖。パトリック教会

当教会の音楽教室(エンジェル音楽教室)では、クリスマス総員礼拝の時にハンドベルの演奏をします。10月になりますと、火曜日と木曜日には、教会のあちこちからハンドベルで演奏する曲が聞こえてきます。毎年違う曲を演奏しますので子どもたちの歌える聖歌もどんどん増えてきました。総員礼拝では日曜学校の子どもたちと一緒に聖劇にも参加します。

礼拝の中でのお説教にしっかりと目をむけている子どもたちを見ますと、この時間をずっと心に留めておいて欲しいと祈らずにはいられません。

(馬淵悦子)

【クローズアップ】22

これからの宣教課題を考える
〜教役者研修会に参加して〜

6月22日から24日にかけて、箱根スコレプラザを会場に教区教役者研修会が掲出テーマのもとに行われた。参加教役者は23人、加えて5人の聖職養成委員がスタッフとして支えてくださった。3日間深い霧の中に包まれ、盛りだくさんの日程を集中して行うことが出来た。講師の中部教区西原廉太司祭、横浜教区三原一男司祭、上智大学マーク・マリンス教授からお話を伺う機会に恵まれた。

西原司祭の『公共哲学』としての聖公会神学とこれからの宣教課題」、三原司祭による「松

戸・柏・浦安における教区間協働の歩み」、3教役者の発題による「これからの聖職養成を考える」、マリンス教授の「宗教社会学の見地から日本聖公会を考える」、そして「聖書研究と分かち合い」…の5セッションが行われた。これらのセッションを通して、私たちは「宣教課題」を考える上で様々な「視点」の必要性を示唆されたと感じる。

「公共性」という若干、手垢が付いた感がある言葉を用いて課題・方向性を共有することの困難さを感じつつも、「公共」の再定義によって重要な視点となること。現状横浜教区である3教会・伝道所のスタートが「信徒運動」によること、その担い手は大半が東京教区所属であっ

たこと、地域としての教区と所属意識としての教区の限界の存在、それを乗り越える聖霊の働きの力強さ、これらを確認するときに私たちの「視点」をどこにおけばよいのだろうと問う問い。数値資料を用いて語られる社会学的視点からの宣教課題の模索。それらを踏まえた上で「聖書」はどのように語っているか、との討論。様々な「視点」を感じる事が出来た。その「視点」は講師の方々のお話と共に参加者それぞれが表す「意見」を聞く中で感じる事が出来たものであると思う。この私たちの経験が広まることを心から願っている。

執事 中村 淳
(東京聖マルチン教会)